

な解を調べている。

14. Edgeworth market game, Shubik M. 1 財をそれぞれ a_i 持っている M 人と、2 財をそれぞれ b_i 持っている N 人がいる市場で、それぞれの人の 1 財 x , 2 財を持つことから生ずる効用が $\Psi(x, y)$ で表わされる場合を game として定式化し、その解を求める。

15. A note on the article "Some experimental n-person game". Luce, R. D. Kalisch et al の実験("Decision process" にある)の結果を著者の Ψ -stability (coalition の変化に制限をつけたときの安定な解の条件)の基準によって吟味し、結果が理論にあってることを述べている。

16. Acceptable points in general cooperative n-person games, Aumann, R. J. 同じ game を何度もくり返す super game を考え、そこで協同して strategy を mix なることを許して、均衡解(配分のベクトル)を考える。すべての 2-person game はこのような解(strong equilibrium point)を持つが、3-person になると持たない場合もある。このような解の性質を論じている。

17. A Bargaining model for the cooperative n-person game, Harsanyi, J. C. Nash の 2-person bargaining における arbitration の概念を n-person に拡張する。もし no trade point が定まれば、均衡点は Nash の場合と同じようにして

定まることがすぐ示される。しかし n-person の場合は一部の協議が成立しなくとも、他の部分の取り引は成立するから、no trade point は唯一に定まらない。そこで n 人のあらゆる組み合わせを考え、それぞれの間で取引が全体として均衡するような解を求めるところを提案している。

18. Absolute games, Isbell, J. R. 各々の player が比較可能ではあるが、直接 transfer することはできないような絶対効用を持ち、game の payoff がその効用で表わされている場合の解を arbitration scheme の考え方から論じている。そして two player および three player の場合の解の存在を示している。

19. A New approach to n-person games, Kemeny, J. C. Neumann の解の多義性を回避するために、まづ個々の coalition については、あらかじめその配分が定まっていると仮定する。そうすると各 player の望む coalition は決まるから、多くの場合成立すべき coalition が定まることになる。という考え方の簡単な説明。

最後に前号でのべたように、文献リストがのっているが、そこにはゲームの理論だけでなく、広く統計的決定理論、L. P. 等の関係の論文も多く収められており、またわが国の学者の論文もかなり見られる。

(竹内 啓)

海外交換雑誌

本学会に交換雑誌として送られて来たのは下記のとおりです。なお、お読みになりたい方は本学会事務所までお越し下さい。また、御希望の方には実費でリプリント致します。貸出しは致しません。

1. REVUE FRANÇAISE DE
RECHERCHE OPERATIONNELLE
3^e ANNEE No. 12

REVUE FRANCAISE DE RECHERCHE
OPERATIONNELLE
92, Rue Bonaparte DUNOD
Editeur. PARIS-6

2. SANKHYA
THE INDIAN JOURNAL OF
STATISTICS
VOLUME 21, PARTS 1~2
" 20, " 3~4

STATISTICAL PUBLISHING
SOCIETY
CALCUTTA

3. ТЕОРИЯ ВЕРОЯТНОСТЕЙ
И ЕЕ ПРИМЕНЕНИЯ
TOM IV Выпуск 4

АКАДЕМИЯ НАУК СССР